

1 学校として目指す授業

協働問題解決能力の育成を目指し、基礎的な力、他者と共に考える力、他者と共生できる力、社会の中で実践する力を育む授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
全体の正答率が都や全国の平均を下回っていた。国語では、「自分の考えが伝わるように工夫する」ことを問う問題の正答率が低かったことから、相手や目的を意識し、根拠を明確にして自分の考えを表現する力に課題が見られる。算数では、「C 変化と関係」と「D データの活用」の領域の正答率が低かったことから、数量の関係を捉えたり、表やグラフなどの資料を根拠に考察・判断したりする力に課題が見られる。	「授業の内容が分かる/どちらかといえば分かる」と答えた児童は主要4教科で80％を上回っていた。一方、学力調査の結果を踏まえると、授業内容は理解しているものの、その理解が十分に定着・積みあがっていないことが課題として挙げられる。児童が学習内容を活用したり、友達との対話を通して考えを深めたりする場面を意図的に設定し、学習内容の定着を図っていく必要がある。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

学習内容の理解における肯定的な回答は、児童の80％以上を占めている。各教科を得意と回答したのは、算数と理科が77％に対し、国語53％、社会68％となっている。学習の進め方については、「他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている」は47％、「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」と「学習していて分からない言葉があれば、すぐに調べるようにしている」は37％の児童が否定的な回答をしている。言葉の意味を調べたり、自分の考えを伝えて相手の考えと比較したりする時間を設定し、言葉に関する指導をしていく必要がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
東京都統一体力テストでは、主に「敏捷性」や「巧緻性」、「全身持久力」に課題がある。児童が楽しく活動しながら「敏捷性」等を高めていけるようにしていく。体育科では、鬼遊びの運動などを取り入れ、運動の行い方や体の動かし方・動きの工夫を学ぶと共に、運動の日常化を図る。体育館を開放し、暑い時期の休み時間などにも体を動かす機会を確保していく。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・低学年の基礎・基本の問題（数の概念・足算・引算・平仮名・片仮名）でつまづいている児童がおり、既習事項を生かした学びにつなげることが出来ていない。

・中高学年では、問題の文意やイメージを捉える力が低く、未解答が多い。文章や問題をよく読んで理解できるように粘り強く考える力が必要である。

・学習課題に対して消極的になりがちだったり、最後まで粘り強く取り組みなかったりする児童が多く、様々な学習経験を通して達成感が得られるようにする必要がある。

4 学校全体の授業改善の視点

基礎・基本の反復と、問題解決のために考えを深めたり広げたりと主体的・対話的に取り組める効果的な学習活動の設定

【授業改善推進プランの活用法】

①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。

②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。

③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。

④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。

⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。

⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・平仮名、片仮名、漢字の反復練習の期間を十分にとる。 ・文章を繰り返しよく読んだり友達に考えを伝えたりする活動を取り入れる。				・反復により基礎、基本の定着を図る。 ・既習事項を基に考えを立式し、ブロックや絵、図などで表現する活動を取り入れる。 ・学習のめあてを自分たちで設定し、学習の見通しをもてるようにする。				日常生活と学習活動を結び付け、自分の考えを表現する活動を積極的に取り入れる。		知識・技能の定着のために、楽しみながら、スモールステップで学習を積み重ねる活動を取り入れる。		描く・作るを基本として、表現する楽しさを味わえるようにいろいろな活動を体験させていく。				できるようになったことを伝えたり、まねたりすることができるように、全体で共有する機会を設定する。				自分の考えを表現し、友達と意見を伝え合う活動を取り入れることで、自分の考えを深めたり広げたりする。	
中学年	・文章から読み取ったことを発表したり、話し合ったりする活動を設定する。 ・漢字の反復練習を行う時間を設定する。		学習課題について、調べたことを共有したり、考えたことを話し合ったりする機会を意図的に設定する。		・前時の復習から本時の学習へとつなげるように授業展開をする。 ・文章問題では、文章を理解できるように動作化やイメージ図を用いて理解しやすくなるようにする。		自然の事物・現象の変化と要因を関係付けて予想し、実験と結果、問題と考察がつながるように文章で表現できるようにする。				他者との学び合いを通して、自らの音楽表現や考えを広げていくような活動を取り入れる。		基礎・基本の習得のため、繰り返し学習を行えるように活動を設定する。				学習計画を児童とともに考え、毎時間振り返る。振り返りから次の時間のめあてをもたせる。		歌やゲームなどを通して、英語に慣れ親しみ、慣れ親しんだ表現や語彙を使い、やり取りをしたり、発表したりできるようにする。		一人ひとりが自分事として考え、友達との対話を通して考えを広げられるようにする。	
高学年	・漢字の反復練習の期間を十分にとる。 ・文章を繰り返しよく読んだり、少人数で意見交換し自他の考えの相違点を理解したり、自分の考えを深めたりする機会を増やす。		学習課題の予想をすると共に、調べたことをグループや全体で共有し合う場を設定し、学びを深める。		既習事項を活用して自分の考えをもったり、考えをICTなどを使って伝えたりする活動を積極的に行う。		予想を基に学習を進め、結果から分かったことを友達同士で深め合う活動を取り入れる。また、調べて分かったことから、次の課題を見出せるようにする。				既習事項を次の学びに生かしながら、主体的に学習できるようにする。		既習事項を生かしたり、自分なりの表現を試したりする活動を設定する。		学習したことを日常生活にどのように活用していくか考え、実際に活用する機会を設定する。		各時間の学習のめあてを児童とともに考え、達成できているかどうかを振り返り、友達に伝え合う活動を設定する。振り返りから次の時間の課題をもたせる。		自分の伝えたい内容について既習の内容を生かして考え、友達と表現し合う活動を設定する。自己の課題を振り返り、課題をどのように解決していくのか考えられるようにする。		読み取り問題にならないよう、自分のこととして捉え、議論できるようにする。	